

2012 年度第 1 回 L-ラーニング学習支援システム研究分科会記録

日 時：2012 年 6 月 12 日(火) 13:30-17:00

場 所：機械振興会館 B3-7 会議室

出席者：小田切夕子(麻布大学)、金子和代(早稲田大学)、小山信弥(関東学院大学)、※澁田勝(獨協大学)、高橋泰行(大正大学)、村上明子(桐蔭横浜大学)、佐藤恵(東北学院大学:記録) ※:欠席

配布資料：1.第 1 回 L-ラーニング学習支援システム研究分科会タイムテーブル
2. 2012 年度版 研究分科会活動計画書(様式 01)
3. 2012 年度 L-ラーニング学習支援システム研究分科会予算計画書(様式 02)
4. 桐蔭横浜大学図書館資料(パンフレット)

議題：

1.自己紹介、役割分担、事務連絡

(1)自己紹介

・所属・図書館業務経験、現在の業務、参加動機、関心のある研究分野について発表

(2)役割分担

・分科会ホームページ更新:小田切(麻布大)
・書記:佐藤(東北学院大学) <次回以降輪番>

(3)事務連絡

・5 月 18 日(金) 分科会代表者会議出席(小田切:於東京農大)

年間予算計画・活動計画を話し合う

・今期の研究分科会・研修分科会開催状況について

11 分科会→6 分科会へ減少

(4 分科会が休会、1 分科会が廃会、企画広報研究分科会が復活)

・研修分科会との連携

5 月 30 日(水)第 4 期第 1 回研修分科会において「図書館員のためのリポジトリ」登録手順等の説明(講師:小田切)

研修分科会の事前課題(危機管理アンケート)を「図書館員のためのリポジトリ」に掲載

※課題掲載は年 5 回を予定

掲載された課題は基本的に閲覧自由であるが、中にはログインが必要なコンテンツあり

・研究成果報告について

毎年全分科会が集まる報告会あり

初年度:交流会 中間報告(発表時間:5分程度) ※2012 年 11 月 16 日(金):専修大学(予定)

2 年目:研究分科会報告大会(発表時間:50 分)

参加分科会の減少により、報告大会の日程・発表時間に変更が出る可能性あり

交流会・報告大会は分科会会員以外の参加も可能(幅広い層に研究成果を聴いてもらうため)

交流会や報告大会を出張扱いにしたい場合は派遣依頼文書を発行する

2.前期までの研究の流れについて

(1)前期の成果

- ・eラーニング・オンライン模擬試験ホームページの作成：一問一答形式
- ・eラーニングホームページの作成：項目別に体系的に学べる内容
- ・「これを読めば初めて図書館へ配属された人も理解できる」という内容を意識して作成

(2)前期までの研究の概念整理

- ・専任の職員が関わらない仕事が増加→分科会の休会に反映されているのではないか
- ・実務に携わらないため経験が蓄積されない
- ・コミュニティ自体が機能しない
 - ⇒積み重ねられない経験値をリポジトリにアップする
 - ⇒「私立大学図書館協会が作るリポジトリ」がコミュニティとして機能するのではないか
 - ⇒リポジトリを中心とした研究内容ではありつつも、その場でいろいろな意見交換をしながら進めてきた
 - ⇒幅広い層に認知される様々な仕掛けを考える(Twitter や Facebook など)

3.今期の研究課題の設定

(1)今回のメンバーの関心の分野

「リポジトリそのものへの興味」「大学図書館の業務を知りたい」が多い
システムに興味のある方には管理者権限を渡し、メンテナンスを行ってもらう

(2)リポジトリのベースとなっているシステム

Xoops 上に XooNips というモジュールを組み込み、レンタルサーバー上で動かしている
Xoops 上にいろいろなモジュールを組み込むことができる

(3)リポジトリの運用

- ・エラーのリポジトリを Web ベースで運用するのであれば、Web コンテンツを活用すればいいのではないか(コーディングマニュアルへのリンクなど)
- ・コンテンツを充実させる→外部リンクを貼るだけでもかなり違う
 - ⇒リポジトリからダウンロードするだけではない使い方
- ・コンテンツをマルチメディアにしていきたい
- ・クックパッドを例に、見せ方、探し方を考えたいとは思ったが実装まではいかなかった

(4)コンテンツの内容

- ・各大学でソーシャルネットワークをどう活用しているかの実例を掲載
- ・リポジトリ構築支援コンテンツの作成(リポジトリ構築を検討中の大学を主な対象とし、導入事例などのコンテンツを掲載)
- ・ホームページやリポジトリを立ち上げる際の意見交換、ほかにも様々な悩み事について話すことができる場所があるとよいのでは
- ・前回までやった経験値を積み上げる、という趣旨はキープしつつ、新たなコミュニティを作るイメージ

- ・DRF よりもっと泥臭い話を
- ・リポジトリの立ち上げをテーマに Facebook グループを立ち上げてみてもよいのでは
⇒リポジトリを構築する上で知りたい事柄、準備の方法など、コンテンツの検討をここで行う
- ・JUSTICE の「電子資料契約実務必携」のようなものを掲載できたらよいのでは
(むしろそのものを掲載させてもらう?)
- ・リポジトリ構築にあたって経営サイドを動かすノウハウ
- ・教員サイドのコンセンサスを得るためのコツ
⇒国立は Web 上に事例があるが、私立の場合殆んど見当たらない
- ・リポジトリの重要性を理解していないケースが多い
⇒リポジトリについて研究者レベルに図書館員がどう説明できるか
⇒リポジトリの概念や重要性を知ってもらうためのスキルを磨くコンテンツ

(5) 情報収集手段

- ・アンケートの実施
⇒趣旨: リポジトリ構築を検討中の大学に対する支援を目的とした、コンテンツのニーズ調査
- ・どんなことを知りたいか、導入の際にどのようなコンテンツがあると助かるか(例えばベンダーリストやベンダーの評価、運用評価など)をインタビューして、そのテーマについてリポジトリコンテンツを作成し、コンテンツについての意見を Facebook で議論する形にしてみても
- ・学内説得の材料(文科省の答申・助成金情報など)
- ・SNS の活用
⇒Twitter: アンケート実施の広報手段
アンケート: Google ドキュメントのスプレッドシートで作成
議論は Facebook へ誘導
⇒Facebook の議論をテキストベースでアーカイブ(但し発言者の承諾が必要)
- ・前々期は東地区中央館(約 250 館)にアンケートを実施し、リポジトリに協力してくれる館にはアカウントを発行し、アンケートページの URL を伝えた。アンケートは Google ドキュメントで管理し、集計を行った。今年もその方式で行くか?

(6) アンケート対象

- ・私大に限定せず、国立大図書館・専門図書館・公共図書館等、様々な館種を対象とする
⇒集計時に館種ごとに分類

(7) Twitter ユーザー名等

- ・「私図協 L ラーニング分科会」
ユーザー名候補: L-Learning / L_Learning / L-wittier / Litter / 7Litter
アカウント: 公開設定
パスワード: 分科会メンバー全員で共有
⇒設定次第高橋さんから ML に周知
- ・他の分科会へ情報を流す必要があるのでは
⇒分科会代表者 ML へアナウンスすれば OK

4.今期の研究スケジュール

- 6月: Facebook・Twitter 個人アカウント作成(各自)
 - Twitter 上にL-ラーニング学習支援システム研究分科会公式アカウント作成(担当:高橋)
 - Facebook グループの作成(担当:小山)
 - アンケート項目(案)の設定
 - ⇒アンケート項目(案)については Facebook の中で議論する
- 7月: アンケート実施
 - コンテンツにして欲しい内容(何を聞きたいか)
 - 追加したいコンテンツも随時受付
- 11月: 交流会で「追加項目受付中」の旨アナウンス

5.夏期研究合宿(集中研究)について

- 開催予定・形態・日程・会場を決めて6月29日(金)までに事務局へ報告する必要あり
- 開催形態: 夏期研究合宿 or 夏期集中研究会

<開催条件>

- 合宿であれば、宿泊できる場所を確保できるか(大学施設には限定しない)
- 土日は除く
- 過去には9月に2日間の集中研修を実施(連続しない日程で開催した実績もあり)

<2012年度>

- 形態: 夏期集中研究会
- 日程: 8月9日(木)・10日(金) ※予定
- 会場: 東京文化会館
- その他: 開催時間⇒9:00-22:00 の間の適当な時間とする(他大学・施設見学含む)
 - 会場借用費⇒1日 8,900円(最小規模の会議室価格)
 - 懇親会⇒8月9日(木) 夜

※次回は夏期集中研究会(8月9日-10日)に集合することとし、11月の交流会報告事項を決定する

以上